

論 文

# 看護学生の社会的スキル —生活感情との関連に焦点をあてて—

北村 昌美・福塚 貴世・河村 一海\*<sup>1</sup>  
高荷 恵美子\*<sup>2</sup>・山口 恵子\*<sup>3</sup>・稲垣 美智子\*<sup>1</sup>  
金沢医科大学附属看護専門学校 \*<sup>1</sup>金沢大学医学部保健学科  
\*<sup>2</sup>小松市民病院 \*<sup>3</sup>石川県立総合看護専門学校

Social skills of nursing students in relation to their  
attitudes to life

Masami Kitamura, Takayo Hikutuka, Kazumi Kawamura\*<sup>1</sup>  
Emiko Takani\*<sup>2</sup>, Keiko Yamaguchi\*<sup>3</sup> and Michiko Inagaki\*<sup>1</sup>

Kanazawa Medical University Nursing School

\*<sup>1</sup>School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kanazawa University

\*<sup>2</sup>Komatsu Municipal Hospital

\*<sup>3</sup>Ishikawa Prefectural School of Nursing and Public Health Nurses

## 要 旨

本研究は、看護学生が学校での学習体験を重ねることにより社会的スキルがどのように変化していくのか、また看護学生の生活感情が社会的スキルにどのような影響があるかを明らかにすることを目的として行った。

調査対象者は、石川県内の3年課程のK看護専門学校生172名で、質問紙調査を学年ごとに集団場面で実施した。

その結果、以下の結論を得た。

1. 社会的スキルにおいて社会的感受性は、3年生が他学年より有意に高かった。
2. 生活感情において理想目標の感情は、学年が進むにつれて低下する傾向にあった。
3. 社会的スキルのうち情緒的表現性・社会的表現性・社会的コントロールは生活感情の影響が大きく、情緒的コントロールは影響が少なかった。

以上から自己を表現する能力や話し合いなどで社会的役割を演ずる能力の教育には、その学生の生活に対する感情への教育的配慮をもった方法が必要であることが示唆された。

## キーワード

社会的スキル, 生活感情, 看護学生